

# 研究大学強化促進事業に関する意見書の取りまとめ

A:優れている

B:良好である

C:不十分である

## 1. RU事業(2021年度)の活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1) 計画に沿った活動状況であるかについて	A	評価者：A	細部変更はあるものの、URA 室に研究力強化ランチ、大型研究展開ランチ、先進医療展開ランチを置いて、研究力・大型研究実施力・知見や臨床へのつなぎという点に着目して、それぞれ着実に強化してきていると感じる。
	A	評価者：B	5つの将来構想（目標）の実現に向けて、計画が立てられ実行されてきている。
	A	評価者：C	TMDU のバリューチェーンを分析した上で、目玉となる CS 育成、次世代創薬研究、医歯理工連携を中心に、研究大学強化促進事業のまとめに向けて、そして同時に指定国立大で掲げた目標の実現に向けて、様々な取組み計画を着実に進めていることが理解できた。
	A	評価者：D	指定国立大学としての研究力強化が着々と進んでいると考える。
	A	評価者：E	将来構想 1 から 5 の実現を目指して、研究力強化、若手支援、産学連携促進など計画に沿って着実に各施策が実施されている。
(2) 事業活動の進捗状況等について（全般的評価）	A	評価者：A	中間評価で A を獲得したほか、科研費獲得（採択率約 40%）、AMED 研究費獲得、包括産学連携の増加、産学連携契約件数や知財数の増加などアウトプットは好調。また BB 企画、TTIDE、TIP 構想など興味深い事業企画が次々生まれてきている。
	A	評価者：B	今年度は特に若手育成の道筋（経済的サポートを含めて）がしっかりと分かった。また、大学の得意な所を上手に組み込んで TIDE やオープンイノベーション、TIP 構想などへと繋がるようになった。重点領域研究（ライフコンソーシアムの統合と口腔科学の新設）の設定とその中での若手育成に期待したい。
	A	評価者：C	様々な取組みが着実に進められている中、とくに、Clinician Scientist 育成のために、卓越大学院制度を統合するなど、綿密な計画を立て、それを職員・URA・教員が協力し着実に進めていることは高く評価できる。また、TMDU の強みの一つである核酸・ペプチド創薬を推進するために、研究センターTIDEにおいて基礎から社会実装まで一気通貫した研究を進めようとしていることも素晴らしく、新たなワ

			クチン開発など今後の成果に期待が持てる。
	A	評価者：D	1.研究力強化、2.オープンイノベーション、3. その他（研究費獲得支援・自走化に向けた取り組み）いずれにおいても進捗状況は評価できる。
	A	評価者：E	若手研究者の育成、産学連携強化、大型研究費獲得、重点研究領域の推進、URA 人材戦略など、様々な施策により順調に進捗している。
(3)評価(外部評価・自己評価)に基づいた改善がなされているかについて	A	評価者：A	前年度指摘事項であった若手研究力強化、研究費獲得、自走化の取組に取り組み、特に前2者は前年度よりも改善したと見受けられる。
	A	評価者：B	1.(2)と同様
	B	評価者：C	前年度の外部評価で課題とされた、研究力強化、研究費獲得、自走化計画について、各々真摯に取り組まれており、とくに科研費やAMED大型研究の獲得において成果を挙げられている点、評価したい。ただ、新たな取組み(と思われる)話が多く、昨年度までのどのような問題点がどのように解決されたのかが、説明からはよくわからなかったため、敢えてBという評価を付けさせて頂いた。 ※報告書の読みが浅いのかもかもしれません。その点、ご了承下さい。
	A	評価者：D	2020年度の指摘事項である ①研究力強化：一特に若手支援、医工連携研究 ②研究費獲得：科研費の採択率、大型研究費 ③自走化の取り組み いずれにおいても、良く対応しているものと思われる。
	A	評価者：E	2020年度外部評価委員会での指摘事項である若手支援、医工連携研究、科研費の採択率、大型研究費獲得、自走化方針を具体化、改善する様々な施策、取り組みをスタートさせている。

## 2. URAについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	質疑を聞く限り、現在は活躍中と感じた。将来の自走化の段階でもこの活躍ぶりが維持・強化されるよう、大学側の覚悟と自主資源の確保を望む。
A	評価者：B	全体として非常にうまく機能していると思う。メンバー1人ひとりが大学を良くしたいという希望と責任感を持って従事しておられる様子が雰囲気的に伝わった。
B	評価者：C	今回ご説明のあった様々な取組みにURAは重要な役割を果たしていると想像できるが、残念ながら、説明資料からは、全部で13名おられるURAの方々、どのような立場(職階や役割分担)で、具体的にどのように活躍されているのかが見えなかった。学内の教職員には、こ

		の点、十分に周知されており、URA の価値について、学内での理解が得られていればよいのだが、この点、少し心配になった。
A	評価者：D	3つのブランチ（研究力強化ブランチ、先進医療展開ブランチ、大型研究展開ブランチ）は、絶妙に配置されており、よく機能していると考えられる。
A	評価者：E	URA の専門を活かし、研究費獲得支援、産学連携支援、臨床評価・治験支援などの業務に配置されており、研究力強化に貢献している。医療系 URA の認定制度など本学独自の取り組みを進めている。

### 3. URAの活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)大型研究展開ブランチ(研究費獲得ブランチ)の活動・実績について	A	評価者：A	包括産学連携、AMED 研究費獲得が順調増加し、地の利を生かした TIP も興味深い。
	A	評価者：B	今回は、個別のブランチ毎の活躍状況は分かり難かったが、個別というよりは3つのブランチの総和として、AMED 研究費の獲得状況や TIDE の推進、TIP 構想、産学連携プロジェクトの増加（契約・特許）などへと結実しており、今後に大きく期待したい。
	A	評価者：C	学内共同研究促進のための BB project の推進とその成果、科研費の不採択が判明したときからの支援とその成果は、非常に印象的で、本学でも参考にしたい取り組みである。また、重点領域における若手研究支援（TMDU 新学術領域）や TIDE の試みについても今後の成果が楽しみである。
	A	評価者：D	科研費非採択決定時点から添削を行い、翌年の採択率の向上を狙うなどの努力をしており、年度別の獲得額の増加傾向があり、このような科研費獲得支援の取り組みは、大変評価できる。また AMED の大型研究費の獲得状況も華々しい。
	A	評価者：E	科研費不採択者への再チャレンジ支援による採択率向上及び AMED 申請書添削などにより、科研費及び AMED 獲得金額は増加傾向にあり URA 活動の効果が表れている。
(2)研究力強化ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	科研費獲得の支援に磨きがかかり（不採択通知直後からの添削支援など）、具体の採択率も、ほぼ 40% までに増加した。CS 育成のための若手支援制度も充実。
	A	評価者：B	3. (1) と同様
	A	評価者：C	※申し訳ありませんが上記と同じコメントです。どのブランチがどの取り組みをやられているのかが区別できませんでしたので。

	A	評価者：D	オープンイノベーション（産官学の共創）としてのオープンイノベーション（産官学の共創）、大型産学連携など、素晴らしい展開である。
	A	評価者：E	TMDU イノベーションパークの設立、大型組織間連携のための研究環境整備などにより、産学連携契約件数及び特許活用率は増加しており、URA 活動の成果が表れている。また、重点研究領域の設定と若手研究者への展開、各研究者の研究内容の聞き取り、学内共同研究促進の取り組み、統合イノベーション機構への組織改革など将来に向けた施策が実施されており、今後の研究力向上が期待される。
(3)先進医療展開 ブランチの活動・ 実績について	A	評価者：A	創薬における破壊的イノベーションの波を踏まえて、核酸・ペプチド医薬に取り組み TIDE を創設。社会的インパクトに期待したい。
	A	評価者：B	3. (1) と同様
	B	評価者：C	※本ブランチの担当がよくわかりませんでした（その意味で B とさせて頂きました）、TMDU Innovation Park（と OI 機構も）を担当されていると想定して書かせて頂きます。 OI 機構は着実に成果を挙げておられるが、これは関係者のご努力の成果と思われる。また、TMDU の研究成果の社会実装、そして医歯工連携の起点として、TIP を起点とした活動に期待したい。
	A	評価者：D	臨床研究・治験相談など ARO としての役割を良く果たしていると考えられる。臨床研究中核病院採択に向けて頑張っていたきたい。
	A	評価者：E	臨床研究・治験の相談窓口の設置、臨床研究管理のオンライン化、COVID-19 関連研究開発支援などの活動が進められており、また、附属病院との協力体制の強化、PMDA との包括連携協定締結など、臨床研究・医師主導治験を実施する環境が整備された。核酸・ペプチド創薬治験研究センターが創設され、TMDU 発技術の重点的推進による早期社会実装が期待される。

#### 4. 事業終了化の自走化構想について

評価	評価者氏名	コメント
B	評価者：A	自走化に際し、大学自己収入からの支援がどの程度見込めるのかについて、ぜひ実態を踏まえ計画立ててほしい。産学連携は水物で、収入も上下することが多いが、ぜひ URA 体制を維持強化できるように大学として腹を据えて柔軟に取り組んでほしい。
A	評価者：B	統合研究機構と統合イノベーション機構が横並びで、大学における研究推進の支援、若手育成（教育）、産学連携、臨床研究へと枠組みが設定されており、またその予算の見込みも含めてきちんと計画されてい

		る。
B	評価者：C	2つの機構に統合するなど、事業終了後に向けての組織の強化をきちんと検討されている点、評価したい。けれども、やはり資金計画について少々心配な点もある。たとえば13名のURAの方々の雇用は、最終的には大学の自己資金で行うことになるが、その「自己資金」の意味が、運営費交付金（その場合でも、承継職員化するのか、有期雇用を続けるのか）なのか、間接経費なのか、あるいは戦略的研究経費のように、大学の「稼ぎ」の部分を強化し、それをあてるのか、などの計画がよく見えなかった。 ※これについては批評家めいたことを書かせて頂きましたが、本学でも同様にいろいろ悩んでいるところです。
A	評価者：D	2つの brunch の合併が、事実上の事業縮小にならないようにご留意いただきたい。
A	評価者：E	自走化の方針が明確になり、大型研究展開 brunch 及び先進医療展開 brunch は 2023 年度以降、運営・活動に要する費用を大学自己収入から拠出するとのこと。大学自己収入の主な内訳は企業との共同研究、特許収入、MTA、大学発ベンチャーの黒字化などであるが、年度ごとに収入のばらつきがあることが懸念される。

## 5. その他、お気づきの点

評価者氏名	コメント
評価者：A	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TMDU の強みをバリューチェーンの形で示し、とくに川上である研究力強化についての取組を丁寧にご説明頂いたのは感心した。</li> <li>2. 自走化について、上記4でコメントしたように、大学としてどれだけ自己収入をURA活動に投入できるかは重要。多くの大学が、補助金が切れると体制が崩れ失敗してしまうが、その轍を踏まないようお願いしたい。臨床研究病院化を目指し、大学としてもこうしたURAリソースを更に強化する方向とのでありがたいが、ぜひきちんとした計画と柔軟な実行で実現してほしい。</li> <li>3. 統合研究機構と統合イノベ機構との間の連携も重要。ここが繋がらないで失敗する大学も数多い。TMDU の強みとして、うまく両機構の連携を実行し、対外的にもどうして強みかがわかるようアピールしてほしい。</li> <li>4. アウトプット評価指標については順調に伸びてきたようなので、次の目標として、研究費の獲得だけでなく、具体的に世に実装された薬など、アウトカムとしての成果を、少しずつでもいいから対外的に示せるようにしてほしい。</li> </ol>
評価者：B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議中にもコメントしましたが、「中区分57：口腔科学およびその関連領域」における医科歯科大学の採択率にはやや残念に感じるものがあります。</li> <li>・申請数が減少気味なのも気になります(H30: 250件; H31/R1: 241件; R2: 221件; R3: 184件)</li> <li>・重点領域研究「口腔科学」計画研究にどなたが入られているのか？個人的興味があります。</li> <li>・YISC は言い辛い。遺伝子にしてもタンパク質にしても略字は3文字が良いとされています。YI support center とか、何か言い易い表現に変えた方が周知し易いのではないのでしょうか。一方、T I D E は4文字でも言い易いし、また「波」に繋がって勢いを感じるので、大変に良いネーミングだと思います。</li> <li>・(一財)岩垂育英会の理事を務めています(奨学生選考委員長、評議員を歴</li> </ul>

	<p>任)。歯学系（特に基礎歯学系）大学院生に奨学金（年に60万円～、最大では120万円）を給付し、以て（基礎）歯学研究者の育成を目指した財団です。昨年からは口腔と関連する全身疾患や疼痛研究を対象とする指定課題も加わりましたので医学系ほかの大学院生でも応募できます。毎年感じるのですが東京医科歯科大学からの申請数が旧帝大系他大学と比べて少ないのです。4月上旬に募集が開始され今年は6月6日が締め切りです。TMDUからの多数の応募を期待します。</p>
<p>評価者：C</p>	<p>いろいろな方策を丁寧に計画され、そして着実に実行されている大学の姿勢に、心から敬意を表します。できれば、こうしたフォーマルな評価者・被評価者の関係ではなく、同じ事業を進めて来た者、同じ課題を抱える者として、もう少しフランクに事務方なども交えて意見交換をする場ができればと思いました。</p>
<p>評価者：D</p>	<p>TIP(TMDU Innovation Park)の取り組みは、大変素晴らしい。お茶の水周辺のバイオサイエンスのエコシステム形成を期待したい。また、近隣の日本橋周辺のエコシステムとの連携も魅力的な展開である。</p>
<p>評価者：E</p>	<p>中間評価で指摘された外国人教員の比率向上についてはあまり説明がなかった。特に欧米の国々の教員の増加が望まれる。 外国人教員の増加に伴い、事務部門の英語によるコミュニケーション、文書の英語化などの取り組みは重要な課題である。</p>